

総合教育会議会議録

日 時	平成27年10月20日(火) 午前10時00分～午前11時8分
場 所	秦野市役所本庁舎3階講堂
構成員	秦野市長 古谷 義幸 委員長 望月 國男 委員長職務代理者 高橋 照江 委員 飯田 文宏 委員 片山 恵一 教育長 内田 賢司
事務局 の出席者	教育部長 水野 和成 生涯学習課長 佐藤 正男 教育部参事 鈴木 健次 図書館館長 石井 勇次 教育総務課長 山口 均 教育総務課課長代理(庶務担当) 鈴木 利昭 学校教育課長 片野 新治 教育総務課庶務担当主任主事 水野 統之 教育指導課長兼 教育研究所長 柏木 荘一

教育部長

それでは、定刻になりましたのでただいまより平成27年度第2回総合教育会議を開催したいと思います。まず、資料のご確認をさせていただきます。平成27年度第2回総合教育委員会議次第、資料1として秦野市教育大綱(案)、次に資料2として秦野市教育大綱(案)に関する説明資料でございます。

また、10月8日から新たに片山委員が前任の内田委員に代わって、教育委員に就任され、平成27年度第1回総合教育会議とは構成員が変更しております。

片山委員、よろしくお願いいたします。

さらに、本日、株式会社タウンニュース社から、事前に写真撮影の申し入れがございます。秦野市総合教育会議運営要綱第3条第2項の規定により、市長の許可を得るものということになってございますので、写真撮影について、許可をしてよろしいかお伺いしたいと思います。

古谷市長
一同
古谷市長
教育部長

皆さんよろしいですか。

(異議なし)

それでは写真撮影を許可します。

ありがとうございます。

それでは、お手元の会議次第に沿って進めさせていただきたいと思いますが、総合教育会議の進行につきましては、秦野市総合教育会議運営要綱第2条第2項の規定により、市長が進行を行うこととされて

古谷市長

おりますので、市長、進行をよろしくお願いいたします。

それでは、会議次第に沿って進めさせていただきます。協議・調整事項に入りたいと思います。

(1) 「秦野市教育大綱(案)について」ということですが、前回の総合教育会議において、色々と意見交換をさせていただき、重要なご指摘や忌憚のないご意見をいただくことができました。前回のご意見等を踏まえた上で、本日配付いたしました資料1として、秦野市教育大綱(案)を作成いたしております。

本市は今年で市制60周年を迎えました。今年度の施政方針の中で、市制施行から60年の節目を迎えた現在、これまで本市の発展に力を注いでくださった世代、そして新たな時代を担う世代が、共に輝けるまちを目指し、進むべき新たな方向を見定めるときであるとの考えを示させていただきました。二宮尊徳翁の詠んだ詩に、「むかし蒔く 木の実大木と なりにけり 今蒔く木の実 後の大木ぞ」という短歌に触れ、先人から受け継いだかけがえのない財産を守りながら、「未来に向かって輝き続ける、持続可能なまちづくり」にまい進していくことを表明させていただきました。

教育とは、まさに秦野という森をつくる木の実を育てることだと思います。そういった思いから、大綱の基本的な考え方は、秦野市民憲章に謳われている「平和」「環境」「健康」「文化」「自治」といった「理念」とともに、秦野の財産でもある自然との共生や、人とかわることで公共の精神を養うという、教育的視点を盛り込んだ教育目標を踏まえていきたいと考えております。

また、県の「かながわ教育大綱」も参考にしつつ、そのうえに立って、今後、教育大綱を定めていきたいと思っております。

資料1でお示しをしたとおり、大綱(案)の一つ目といたしまして、生涯にわたる学習の基礎となる「自ら学び、考え、行動する力」を身に付け、社会を生きる力を育てることを目指して、「未来に向かって、たくましく生きる子どもを育みます。」といたしました。

二つ目としましては、学校・地域・家庭がともに手を取り合い、市民の協働・連帯により、社会全体で共に学び合い、育ち合いながら活力あるコミュニティを構築していくことを目指して、「地域力を生かした子どもと地域が共に育ちあう学校づくりを推進します。」といたしました。

三つ目としましては、平成24年度に小・中学校の耐震化、26年度に小・中学校の普通教室等に空調を整備したところでございますが、子どもたちが安全・安心・快適に学ぶことができる環境づくりを引き続き推進していくことを目指して、「子どもが安全に安心して学

ぶことができる快適な教育環境づくりを推進します。」といたしました。

四つ目としましては、多種多様な学習機会を提供できる環境づくりを推進し、活力ある地域の実現や地域力の醸成に資することを目指して、「市民が地域の資源を生かして生涯にわたり学習活動を行い、生きがいのある充実した人生を送ることができるように努めます。」といたしました。

五つ目としましては、本市の豊かな自然や郷土文化、文化財を後世に引き継ぐとともに、市民の自主的、創造的な文化・芸術活動への支援など、市民の理解を深めることを目指して、「市民の文化活動の充実を図るとともに、郷土の伝統文化の伝承と文化財の保存・活用を通じ、郷土愛を育みます。」といたしました。

最後に、この大綱の対象とする期間ですが、前回も議論となり、私の今の任期のこと、新教育長制度のこと、新たに策定する教育プランのことを総合的に考えた上で定めることとしておりました。

この教育大綱（案）は新たに定める教育プランの基本方針にもなりますので、教育の安定性・継続性を担保する観点から今回定める大綱については、5年を対象とする期間としたいと思っております。

しかしながら、教育を取り巻く社会情勢は日々変化をしております。当然、その時々々の環境の変化により、改善・見直しをする場合が生じることも考えられますので、5年の間に本市の明日を担う人づくりを進めていく上で、改善・見直しの必要があれば、改めて総合教育会議の中で、議論させていただきたいと思っております。

以上が、教育大綱（案）について、私の思いとともにお示しましたが、詳細な内容につきましては、事務局から説明させていただきます。事務局、説明をお願いします。

教育総務課長

それでは、資料2 秦野市教育大綱（案）に関する説明資料を使って、ご説明いたします。

それでは、A3の一覧表をご覧ください。

一番左とその右に先程市長からご説明のありました目指すべき姿、基本方針が載っております。

一番右になりますが、基本方針ごとに細分化しました施策目標が載っております。

一枚おめくりいただきまして、A4の12ページに及ぶ資料になります。先程の一覧表の基本方針、施策目標の概要が載っている資料になります。

まず基本方針1ですが、生涯にわたる学習の基礎となる「自ら学び、

考え、行動する力」を身につけ、社会を生きる力を確実に育てる教育を目指して、確かな学力の定着・向上やいじめ等の人権教育などについて、整理してございます。施策目標①確かな学力の定着では全国学力・学習状況調査の結果をもとに学力等の実態把握と傾向を分析しながら、学びを高める授業研究を推進するとともに、ICT教育に取り組み、情報通信技術の進展やグローバル化に対応できる児童生徒を育てるなど、子どもたちの学びを高めていきます。

また、②いじめの問題につきましては、未然防止・早期発見・早期対応のそれぞれの観点での取組みを進めていくため、人権・道徳教育を継続的に行うとともに、今年度から発足された「秦野市いじめ問題対策調査委員会」の開催をするなど地域、家庭、学校が一体となって、適切な対応を推進していきます。

さらに、⑥幼稚園の配置の見直しでは、今年度策定を予定しております「秦野市公立幼稚園運営・配置実施計画（案）」に基づき、園児数の減少や保育ニーズの多様化に対応するため、教育環境の整備を行ってまいります。

次に4ページになります。基本方針2では、地域・家庭・学校が連携して、子どもの成長を支える仕組みづくりについて、地域支援体制づくりや地域による学習支援を推進していくことについて整理しております。①地域支援体制づくりでは、子どもを育む中学校区懇談会などこれまでの地域との連携を土台に、育ちと学びの連続性を意識した子どもの豊かな成長と地域の活性化を図るため、地域の方の経験を生かした教育活動等への支援体制づくりに取り組みます。

また、②地域による学習支援の推進では、東海大学の協力のもと行っている教科学習支援員の派遣など地域住民や近隣大学と連携した学校づくりを進めていきます。

次に6ページになります。基本方針3では、子どもたちが、安全に安心して学校生活を送り、快適で充実した学習活動ができる教育環境の整備を図るため、ICT教育環境の整備や学校施設の長寿命化の推進について整理しております。④ICT教育環境の推進では、基本方針1でも触れましたが、ICT教育に必要な環境整備を進めていきます。また、②学校施設の長寿命化の推進では、学校施設の老朽化が進行していることから、維持補修などの予防保全に努めるとともに計画的な改修により長く大切に学校を使っていけるように取り組みます。

次に9ページになります。基本方針4では、市民に生涯にわたり多

種多様な学習環境を提供するとともに地域や市民の役に立つ施設サービスの充実を図るため、公民館事業の充実や図書館サービスの充実について整理しております。

①公民館事業の充実では、多様化する学習形態に対応し、市民ニーズの充足に努めるため、学習の成果を発揮する場の提供や地域コミュニティの醸成を図るため、地域との協働事業の充実に取り組みます。

また、③図書館サービスの充実では、行政への市民参加が進む中、市民が自ら必要な情報を収集し、意思決定するために必要な多様な情報を提供するため、資料の充実に努めるとともに、特色ある図書館づくりをしていきます。

次に11ページになります。基本方針5では、文化財等を活用し、歴史・文化等に触れることで、文化芸術活動の振興や郷土愛を育むことを目指して、市民文化の向上や秦野再発見の拠点づくりについて、整理しております。

④市民文化の向上では、市展や文化祭を開催することで、市民の学習意欲の向上や生きがいづくりの一助とし、豊かな人生を送れるよう支援していきます。

また、⑥郷土愛の拠点づくりでは、桜土手古墳展示館が平成32年度に開館30周年を迎えるに当たり、歴史・文化の発信拠点として、施設の活性化とともに文化財等のより有効的な活用を図っていきます。

以上が、基本方針ごとの主な内容となります。

ありがとうございました。

大綱（案）について、ご意見等いただければと思います。

望月教育委員長、何かございますか。

先程、市長から大綱（案）策定に対する思いについて、ご説明がありました。その中の基本方針の2のところで、学校・地域・家庭がともに手を取り合い、市民の協働と連帯により活力あるコミュニティを構築していくというお話がありました。私も子どもというのは地域の宝であると思います。そうした子ども達を地域で育てる教育づくりを進めていく必要があると考えているところでございます。地域というのは家族に例えるならば兄弟、姉妹ではないかと思っています。ですから温かい雰囲気をもったところが地域ではないかと思っています。地域で子ども達を育てるといって教育づくりを進めていくということが必要ではないかと思っています。本市では、これまでも東海大学、上智大学

古谷市長

望月委員長

の協力を得て、大学生を教科学習支援員として小・中学校に派遣したり、秦野の特色である豊かな自然環境を生かした自然体験学習に取り組むなど地域力を生かした教育体制づくりに努めています。東海大学、上智大学の協力で教科学習支援ということで子どもの学力向上にもつながっているものだと思います。これからは保護者や地域住民の参画を得ながら学校運営の改善や学校支援の充実を図るなどコミュニティスクール制度の導入が必要になってくると考えています。幸い本市では、来年度から中学校1校がモデル的にコミュニティスクールの導入をする予定です。神奈川県を見ても、近隣では小田原市、開成町、厚木市の小中学校数校が取り組んでいます。全国的に見ても、約2千4百校ほどの数であります。神奈川県では本市のコミュニティスクールの導入が県下に先駆けて実施されるということは、神奈川県のモデル的な先導役として期待できるのではないかと考えております。

古谷市長

これからの学校づくりは学校のみで成り立つものではないと思います。家庭や地域全体で学校を支えて、学校を中心とした地域ネットワークの構築が求められていると考えております。学校は地域の拠点であり、防災の拠点であり、未来を創る拠点でもなければならぬと思います。

先日も記録的な大雨により鬼怒川が氾濫いたしました。甚大な被害をもたらすという災害が発生してしまいました。このように予想だにしないような災害は本市においても、いつ発生してもおかしくはないのだと思います。

市長に就任して以来10年が経ちますが、東北の大震災を目の当たりにして、こういう思いを強くしているところであります。東日本大震災以降、釜石の奇跡とも呼ばれ、防災教育が今注目されております。本市においても、災害被害の記憶を風化させないようにして、継続的、計画的な防災教育の推進を図るなど、あらゆる面において地域と共に育ちあう学校づくりを進めていくという思いを込めて、基本方針2といたしました。

高橋委員、何かご意見ございませんでしょうか。

高橋委員

学校教育におきましては、幼児教育からその後の教育まで、全体を通じた連携・接続が重要な課題となっております。また、本市の特色といたしまして、いままで幼小中一貫教育を進めてまいりました。幼小中一貫教育に関する研究会において、幼と小、小と中、中と幼など様々なお互いに育ち合えるような交流の積み重ねをしたことで、期待や憧れ、安心感が生まれ、互いの学びの場となったことや幼小中の教師同

士が互いに活動のねらいをもち、理解して行うことで活動の場がより充実していくことを実感したとの報告があったと聞いております。幼小中の施設が本市では比較的近接しているという特色からも更なる推進をしていってほしいと思っておりますが、大綱での位置づけはどうなりますか。

古谷市長

幼小中一貫教育は基本方針1から3の学校教育部分のすべてに通ずる一つの大きなファクターと捉えることができると思います。基本方針の中で個別に幼小中一貫教育という言葉は、あえて使用しておりませんが、地域の特色を生かした、学びと育ちの連続性のある教育活動を引き続き推進してもらいたいと思います。

大綱における幼小中一貫教育の位置づけについては、事務局で十分に精査をしてもらいたいと思っておりますが、飯田委員、何かございませんでしょうか。

飯田委員

先日、教育委員会改革のきっかけとなった大津のいじめの遺族がいじめ防止対策推進法の実効性を求めて、改正を訴えるというニュース、また、栃木県で保護者、いわゆるママ友同士によるいじめによって母親が相次いで自ら命を絶つというニュースもありました。このニュースを見て、いじめは子どもの問題だけでなく、大人にも起こりうるのだと思っております。そういったことから、子どものうちから人権・道徳教育を推進し、地域がひとつとなって、いじめ根絶に向けていくことが重要だと思います。大綱では基本方針1に取組内容が含まれていますが、子どもたちが自己を認め、互いを認め、尊重し合いながら自己実現を図っていける心のたくましさを表現されているのかなと感じました。

古谷市長

いじめ問題というのは、あってはならないことですが、誰にでもどこでも起こりうるのだと感じております。本市では、平成27年6月の市議会において、いじめの未然防止と早期対応を図るため、秦野市いじめ問題対策調査委員会及び秦野市いじめ問題再調査会条例を制定いたしました。

また、保護者、地域の方とともに、いじめ根絶に向けた取組みを推進するために、いじめを考える児童生徒委員会を組織しております。市制60周年記念事業として来月には、はだの子ども議会を開催する予定でもございます。

残念ながらいじめ根絶に特効薬はありません。地道に着実にいじめ根絶に向けた取組みを進め、たくましく生きる子どもを育み、元気で明るい学校生活を送れるよう、環境づくりをしていきたいと考えています。

昨日も本町小学校の6年生が修学旅行に行って、大雨で帰ってくる

のが大変であったようでありますが、その中で彼らが考えたことは、自分たちはそれでも修学旅行を終えて、無事に帰って来られた。災害を受けた人達がどのような思いを持っているかということについて、思いをはせて、自分の幸せも半分、他人の幸せも考えなければならぬということ募金をしてくれまして、必ず被災地に届けると伝えました。我が町の子ども達は良い子達がそろっているなという印象を持ったわけでありましたが、片山委員、何かご意見ございますか。

片山委員

この度、前任の内田委員に代わって教育委員に就任いたしました、片山でございます。よろしく願いいたします。まだ、教育委員になったばかりでございますので、これからもっと勉強させていただいて理解を深めていきたいと考えております。この会議に臨むに当たりまして、前回会議の会議録を拝見しました。内田委員もおっしゃっていたが、私も東海大学の教授ですので、東海大学は地域の一員としてできることがあれば何でも協力を惜しまないという思いは同じであります。

大綱に関してですが、基本方針3の快適な教育環境づくりという部分になるかと思いますが、情報化社会に対応するため、全国的にも学校におけるICT化が進んでいることと思います。文部科学省では教育の情報化ビジョンを2020年度に向けた情報化に関する総合的な推進方策と位置づけて、情報通信技術を活用した子どもたち一人ひとりの能力や特性に応じた学びなどの推進を目指しています。本市においても、これを受けまして、ICT教育の環境整備を推進していただき、これから生きる子どもたちの情報活用能力の向上を図ることによって、生きる力を育てていくことが大切だと思っています。ただし、整備するだけではなく、地域全体でいかに支えていくかということを考えなければならぬと思っています。

古谷市長

片山委員には今回北海道にも御同行いただきまして、今までの豊富な経験や豊かな知識をお持ちですので、ぜひ、秦野市教育委員としてよろしくお願いをしたいと思います。今、お話いただいたように、情報通信技術の進展やグローバル化が進んだ現代におきましては、容易に多くの情報を発信したり、収集したりすることができるわけでございます。前回の会議でもお話させていただきましたが、簡単に世界の国々とつながることもできる便利な世の中になりました。本市におきましても、姉妹都市のパサデナの中学校の生徒と秦野市の生徒が時間差を超えて、スカイプを使って交流を続けておりますし、これを一中

学校に限らないで、各中学校にネットワークを張ってやっていけば、さらに子ども達が豊かな世界を間近にすることができるのではないかと考えております。

しかしながら、大量の情報を容易に得ることができることから、プラス面だけではありません。これからは情報モラルを含めて、その情報を活用する能力の育成が必要となってくると思います。

本市においても、時代にあった教育環境の整備を図っていきたいと考えております。教育環境の充実に向けた課題は山積しておりますが、まずは子どもたちの学習環境の充実を図るため、学校におけるICT化に取り組み、ICTを活用することで子どもたちの学習意欲をさらに高めて、わかりやすく、わくわくする環境づくりをするとともに、教職員の多忙化についてもその軽減に努めていきたいというように私は考えております。

また、快適な教育環境ということでは、平成26年度には小・中学校の普通教室等に空調を整備しましたが、教育長、子どもたちの反応はどうか。

内田教育長

今、空調整備のことで子ども達の反応ということで、お話がありました。私自身も大変喜んでおりまして、総額で約11億円の投資をしていただいた。教育環境の整備ということでは、大変ありがたいことだと思っております。子ども達が一番喜んでいて、もちろんPTAの皆様あるいは保護者の皆様も大変素晴らしい評価をいただいているという報告を受けております。学習環境の向上が図られたことにより、夏休みにサマースクールや学習会を開催して、体験学習や児童生徒の学力向上に向けた取組みを行うことができました。参加した児童生徒数は全小中学校で約4千人という報告を受けています。このような規模で学習支援が行えたということは、空調整備のおかげだと思っております。感謝しております。

今年の夏休みに行った体験学習では、教員ばかりではなくて、地域の方々や大学生の皆さんの協力を得て、行うことができました。これからは地域力を高めていただくということが子どもたちを地域の中で育てていくには必要なことだと思っております。そのためには、生涯にわたって学習活動を行うことができる環境づくりをしていく必要があります。市民一人ひとりが豊かで充実した人生を送ることができるように、市民の学習に対する要望等を捉えまして、学習の場を提供するとともに、その成果を適切に生かすことのできる機会を拡充する

ことも必要だと思っております。地域力を高めて、地域と学校が共に育ちあう教育サイクルというものを作っていく、目指していくことが必要だと思っております。地域力という面では、特に園長校長会で毎年園長、校長に伝えていますが、子ども達は学校だけで育つわけではない、地域の中で育っていくということから、校長、教頭、教員が地域の中に足を運んでほしいということを説明しております。昔は、地域の皆さんが、今でもそうですが、地域の皆さんが学校を支えてくれていましたし、子ども達に叱るときには叱る、褒めるときには褒めるということをしてきていました。そういうことを学校の先生方自らが、地域の中で実践してほしいということを言っておりますので、引き続き、そういうことを学校に伝えていきたいと思っております。

古谷市長

そうですね。私も同感です。日本の教育制度は、明治にできたときに1村1小学校ということが大きな目標でありました。私が北海道の離島に行った時に、あるところに開校120周年というのぼり旗が立っていました。そういったところにも小学校ができました。秦野もそうですが、本町小学校が140周年超えました。その当時を振り返ってみますと、村1番の文化施設ではなかったかと思えます。要するに教室には黒板があって、机、椅子があって、そしてトイレがついていました。その当時、家にトイレがついていませんでしたから。またオルガンもありました。村1番の文化施設、そういうことから日本の教育というのが地道に旅立ちました。我々はそういう先人たちの苦労を無駄にしないで、次の世代に引き継いでいくことが必要だというように、私は常に思って、学校の教育施設の環境整備に力を注いでいます。今回の大綱では、地域力、地域の教育力というのが一つのキーポイントになるのではないかと考えています。これからの教育は学校と地域が共に育ちあう環境づくりが求められていくと思えます。

本市の市民力、地域力なくして、子どもたちの健やかな成長は叶わないと思えます。そのためにも、市民が生涯にわたって学習できる場や地域のコミュニティ形成の場を提供し、大切なのは、その学習成果を発揮したり、地域に生かしたり、地域・家庭・学校が三位一体となって子どもたちを育む体制を整えることが大切で、それが大人から子どもにつないでいく。

そして社会全体で秦野の明日を担っていくことを目指していきたいと思っております。

大変時間のかかることです。色々なご意見があることはよくわかっ

ておりますが、時間をかけて、じっくりと地域と学校の中が一体化となって動けるような、そんな思いで、この社会全体で秦野の明日を担っていくことを目指していきたいと思っております。

ほかになにかございますか。

望月委員長

先程、市長からパサデナの学校とスカイプというお話がありました。実は10月23日に秦野市の中学生13人が表丹沢野外活動センターに集まります。そして、渋沢中学校の姉妹校のトンプソン中学校の生徒と夜10時からスカイプを通して、交流する予定です。中学生も自分達の知っている単語を駆使しながら、向こうの中学生と交流して、非常に好評を得ています。スカイプというお話がありましたので、付け加えさせていただきました。それから、空調の話がありました。神奈川県では、基地があるところは防衛省の補助などで整備させているところもありますが、秦野は基地がありません。財政が非常に厳しい中で、他の市町村に先駆けて、小・中学校同時に空調設備を設置したということは、県下では海老名市に次いで2番目です。そういう中で、先程、市長かも教育施設には力を入れてきたというお話がありました。そういったお考えを具体的な形で空調設備などに表していただいたということです。私は学校の教育現場の出身ですので、教育現場の先生方の意見を総括すると3つに絞られると思います。一つは快適な環境の中で学習活動ができるということです。二つ目は教職員のメンタルヘルス、心の健康の増進、確保に役に立っていることです。例えば、運動会は9月の第2土曜日あたりが多くて、そのために昨今暑い中で練習に励むわけですが、空調があるおかげで練習後も快適な中で学習あるいは学校生活を過ごすことができます。3つ目ですが、私の主観的なものになりますが、いわゆる各中学校には問題傾向をもつ生徒がいます。彼らはストレスが溜まっています。快適な教室に入ることでストレスの軽減が図れるということです。そして、発育期になるとなかなか教室に入ることができないという傾向があります。空調があることによって、教室の中にすんなりと入って行って、学習にも取り組めるというような、以上の3点が言えるのではないかと思います。今、秦野市は総じてどこの中学校も落ち着いている。私はこの空調がかなりの遠因として挙げられるのではないかと、学校の教育現場の出身の一人として、そんなことを思っています。

古谷市長

前段でお話いただきました国際理解教育ですが、片山委員はそういう面でも御造詣が深いと聞いていますので、秦野の子ども達の国際理

解教育といますか、これからの思いというものがありましたら一言いただければと思います。

片山委員

造詣が深いというよりも、国際部を担当したことがあるといったことなんですが、大学の話になりますが、大学生でも外国人の方と初めて接するという学生がいます。そういう学生には、芽を開かせるという機会を大学としては作りたいと思っています。それを小学生、中学生のうちからもしやっていたらただけるのであれば、世の中は多様なんだということを実に理解していただけたらと思います。大学生になるとなかなか会話の中に入っていけないということがあります。小さいうちにやっておくと気軽に入っていけるようになるのではということ期待をしています。

内田教育長

先日、英語のスピーチコンテストであいさつがありまして、その時に東海大学の敷地内の喫茶店では英語での会話しか認めないということを実話として取り入れて、英語に浸かってしまうような環境を大学として作っているということを実て、ぜひ秦野の子ども達もご家族といってみてほしいということを実てたところでは。

古谷市長

よく国際社会の多様性を比較する意味で、イスラム教文化というのがあります。食べ物などに非常に制限のある、そういうように自分達の食文化の中では考えられないような生活をしている。それぞれの民俗がそれぞれの文化と歴史と伝統を持っています。それを否定的な形で考えるのではなくて、自分達にない文化を理解するという、相手を実理解するということから国際社会が成り立っていると思います。それが、相手を実否定する態度ばかりをとりしていると非常に閉鎖的な、国際社会から孤立してしまうということに繋がっていくと思います。私は、23歳の時に青年の海外派遣団としてインドやネパールに行かせてもらいましたが、その時に非常に貧しい生活を目の当たりにして、日本に帰ってきてから政治の世界に入って、何としても役に立ちたいと思って、今日までやってきました。そこには、相手を実認める気持ち、相手の文化を実理解するという、相手の文化を実理解しないで批判的な話ばかりして実すと国際社会の中で緊張をしてしまったり、日本の戦前に犯してしまった過ちみたいなものをしっかりと律したうえで、世界に開かれた、国際社会に通用するような子ども達をこの秦野の中でたくさん育てていくということが、今、私たちに求められている大切なものではないかなという思いを持っています。

もしほかにご意見がないようでしたら、秦野市教育大綱（案）につ

きましては、今回いただきました意見等を踏まえて、必要な修正をさせていただきます、次回の総合教育会議において確認させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

高橋委員

今年ノーベル受賞者が2人出ました。その中で、特に印象に残っているのは、大村先生は人のためになることをしなさいということをおっしゃられて、それがその後の活動の指針となったと、また梶田先生の方も、いつも学校に行ったら先生の言うことをよく聞きなさいということをおっしゃられて、先生の顔をじっと見ながら、一語一句聞き逃さないようにして、授業を受けていたというお話をされていました。地域と学校と一緒に子どもを育むのはもちろんですが、その土壌となっている家庭に教育の大切さを幼少の頃から教えていくことも大切なのではないかと日頃から感じています。大綱の中で地域力というものを生かして、秦野の教育を進めていくことは、これから必要とされることと認識していますが、家庭教育というのも重要ではないかなと感じています。

飯田委員

私も地域力ですとか、望月委員長の方から、コミュニティスクールのお話も出ましたが、来年度から西中学校がコミュニティスクールに指定されるということで、どのように西中学校が変わっていくか、今から楽しみにしております。

古谷市長

それでは、今いただきました意見等踏まえまして、必要な修正をさせていただきます、次回の総合教育会議において、確認をさせていただきますと思います。

一同

(一異議なし)

古谷市長

次に、その他教育課題等に関する意見交換に移りたいと思います。先日は、悪天候の中、報徳サミットということで、北海道豊頃町に行っていただきました。誠にありがとうございました。同時に、絵本の里の剣淵町、そして、町長や委員の皆様と色々な形での交流があったというように聞いておりますが、感想などお話をいただけたらと思います。まずは望月委員長からお願いできますか。

望月委員長

剣淵町の件についてです。じんじんのロケ地ですが、今まで映画で見ていた剣淵町と実際に行ってみただけでは、ぜんぜん印象が違って、視察することでモチベーションが高まってきました。それから町の幹部職員が温かく迎えてくれた、なにかパサデナに行ったときのような気がいたしました。皆さん、本当に心から迎えてくれている、心の温かさ、心の交流を味わうことができました。まさに百聞は一見にしかずということだと思います。それから、豊頃町の報徳サミットですが、尊徳の孫の尊親さんがあそこに10年間いて、町を開拓しま

した。尊親さんの子どもは10人いたかと思いますが、その中で4番目の子どもで四朗さんという方がいます。四朗さんは豊頃町で生まれました。そして、四朗さんは大きくなって、山梨県上九一色村の豊茂の開拓農業協同組合を作りました。豊茂という地名は、豊頃町の豊と茂岩の茂をとってつけられました。地域の方は通称豊茂地区と呼んでいるそうです。四朗さんは非常に熱心に、豊茂地区を育ててくれました。来年は南相馬市であるかと思いますが、被災地になったところでもありますので、我々教育委員と社会教育委員がぜひ行けるようにご配慮いただければありがたいと思います。

古谷市長

高橋委員、ぜひ女性の立場からみて、ご意見いただければと思います。

高橋委員

剣淵町の絵本館を視察したときですが、建物がすばらしいですし、木材を多く使用しているからか、どこか温かく、いこいの場というような印象を持ちました。町おこしの一環として絵本の里づくりを行ったと聞いていますが、男の人達が積極的に読み聞かせ活動に参加しているということがすばらしいと思いました。小学校や図書館に読み聞かせに行く際にだいたい主体となっているのは、お母さん達です。それを男の人が出先でもお気に入りの絵本を持って行って読み聞かせを行うという、生活に根付いているというのがすばらしいと思いました。このように読み聞かせ運動も広がりを持っていけたら良いのではないかと感じました。

古谷市長

今週の日曜日にNHKの朝の番組で剣淵町が紹介されておりまして、男性が読み聞かせを行う様子も流れていましたが、我々には新鮮な感覚で映ったのではないかと思います。片山委員いかがでしょうか。

片山委員

今、お話のあったとおりで、絵本の里というのはどういったところか分からなかったのですが、とても驚きました。町の人と話をしたら、はじめはこんなことで町おこしができるのかと思っていたということでした。ただ、地域を挙げてやろうという気概を肌で感じるようになってから、これはやはり行政として先頭に立ってやっていかななくてはならない、周りの力に動かされましたとおっしゃっていました。こういうことが大事なんだなと思いました。

古谷市長

そうですね。飯田委員いかがでしょうか。

飯田委員

まずこのような視察に行かせていただきまして、感謝しております。先程、望月委員長がおっしゃっていましたが、剣淵町では本当に

人の心が温かく、おもてなししていただいて良い町だなと感じました。絵本の町ということもそうですが、私が印象に残ったのは、子ども達それぞれの椅子が用意されていて、子ども達が成長してからも記憶に残るような取組みだなと思いました。また、その次に幕別町の図書館を視察させていただいた際には、図書館運営がとてもスムーズにしているなと感じました。

古谷市長

今、お話のありました椅子ですが、子ども達が自分の名前が入った小さな椅子を持っていました。あれはやはり感激しました。図書館が開拓されるということについて、いろいろな手法が考案されています。その基本には、やはり市民から愛される図書館というのが市民に親しみを持ってもらい、大切に使用してもらえんということの原点というような感じがしましたので、これから我々も公共施設のあり方については、きちっと方向性を持って、考えなくてはいけないと思っております。

教育長、ご意見ございませんか。

内田教育長

北海道は飛行機が大変揺れましたが、無事出発し無事到着いたしました。いろいろ見させていただきましたが、特に、今、飯田委員のおっしゃった木の椅子ですが、費用について聞きましたところ、1脚3万円ほどということでしたので、実行できないかなと思いました。また、あるシステムを作っていて、本を必ず2冊つくるみたいで、1冊は図書館に置いていくと。そうすると蔵書数は一つ増えていくというシステムにしたということをおっしゃっていて、良いシステムを作られたなと感じました。そういうようなことを工夫しているから、どんどん広がっていくのだなということを感じました。それから、剣淵町や豊頃町ですばらしい雄大な景色を見まして、こういうところで子ども達がおおらかで優しい気持ちになるのだろうという印象を持ちました。こういった思いを伝えていけたらと思います。

古谷市長

私がその時に感じたことは、実は前川崎市長とご一緒する機会があった時に、川崎市は人口が150万人を超えている、秦野市は16万9千人で前川崎市長からは羨ましいといわれたことがあります。あまりにも巨大な都市になってしまうと、組織の運営が無機質なものになってしまう。しかし、人口が17万人弱という中では、まだまだ有機質で、市民のことが目の前でわかるという面では、人口3,500人の剣淵町、豊頃町に行って、小さいながらも自主的に色々な形で可能性を追い続けているという、小さな組織だからこそできるという有利

性を感じました。わが町では、中学校が9校、小学校が13校ですが、そういう中では、小学校が100校とか150校とか抱えているようなところから比べると、教育委員会そのものが心の通った、血の通った組織として、教育行政をこの5人の教育委員の皆さんの英知を出していただければ、できるのではないかと思います。大きすぎない、手ごろな大きさの教育組織ということで、将来の秦野市の子ども達のことを考えながら教育委員会の運営をしていただければ、ありがたいなと感じているところです。

ほかにございますか。

望月委員長

新しい教育委員会制度がこの4月からできましたが、本市の市長の姿勢として、先程おっしゃっていただきましたように、ソフト面は教育委員会に任せて、ハード面に力を注いでいきたいといったような考えを述べられておりました。一貫して現在までそのような考えでいて、それを貫いてくださるといふ姿勢に敬意を表したいと思います。今、盛んに学校、家庭、地域による三位一体ということが出てきていましたが、教育行政も含めて、四輪駆動で秦野の教育を推進していきたいという思いでいます。市長は先程、教育とは、秦野という森を作る木の実を育てることだとおっしゃっていただきました。大変すばらしいなと思いました。これからは四輪駆動で子ども達がやがて大きい木と成長するようにがんばっていきたくと思っています。

古谷市長

ありがとうございます。教育委員の皆様と一緒に力を合わせて、秦野の明日を担う、大きくいえば、日本を担う、世界を担う子ども達を育てていきたいというように思いますので、よろしく願いをしたいと思います。以上をもちまして、事前に用意しておりました協議調整事項についてはすべて終了となります。少し横道にそれたこともございましたが、それがこの会議の良さであるとも理解をしております。それぞれ貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。本日いただきましたご意見を踏まえたうえで、大綱の策定に取り組んでいきたくと思っています。また、次回の総合教育会議についても、よろしく願いしたいと思います。それでは、事務局の方に進行をお願いしたいと思います。

教育部長

ありがとうございます。

次回の総合教育会議ですが、次回は年明けぐらいを予定させていただければと思います。詳しい日程については、後日事務局において調整させていただきますので、よろしく願いいたします。それでは、

以上をもちまして、第2回総合教育会議を終了させていただきたいと
思います。

會議録署名者

會議録署名者

會議録署名者

會議録署名者

會議録署名者

會議録署名者

會議録署名者